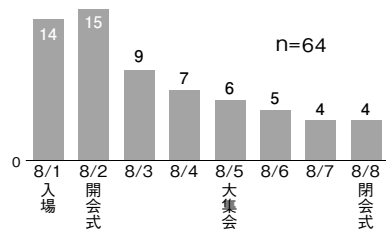




15NJ ナタの事故に関するアンケート結果（概要）

15NJではナタによる切創が多く発生し、64名が救護所で縫合等の処置を受けました。これは派遣隊スカウトの200人に1人の割合ですが、救護所を受診するほどでなかったケガも含めると、受傷者は相当数に上ったと思われます。

●救護所で縫合等の処置を受けた人数（単位：人）



15NJ 安全救護部まとめ

安全委員会では、各派遣隊で事故・ケガ予防のために留意・工夫されたことについて派遣隊長を対象にアンケートを行いました。今回はその結果の概要を報告します。今後の事故予防につなげるために、参考にしていただくと幸いです。

回答をお寄せくださった256名の方の指導者の皆様、どうもありがとうございました。

ナタによる事故・ケガを予防するために行った対策

事前訓練での指導／事前の準備

- 刃物の取り扱い及び安全対策・危険予知の訓練（KYT）
- 薪の種類や材質などの特徴についての指導や、NJで使用するための葉樹、広葉樹での訓練
- 参加スカウトの技能を確認 ○指導者も「薪割り」の訓練
- 原隊との連携（原隊でのナタの訓練・薪による自炊を依頼）

現場でのナタ使用者への指導・監督

- スカウトへの直接指導
- ナタ使用時のVSやリーダーによる指導体制
- 「中学生以上」「菊・1級」「班長」「中3・VSの経験者」「刃物の使用許可書所持者」「炊事章取得者」など隊独自の基準や、健康不良者への刃物使用禁止措置などにより使用者を限定

現場での薪への対応

- 堅く割れない薪はそのまま燃やすか指導者が割る、薪の配給に指導者が同行して堅い薪を避ける、薪の堅さを確かめて柔らかい薪を割るように指示、など、薪の堅さに応じた対応
- 薪を割らずにすむ薪ストーブや特製かまどの活用
- 薪を割りやすくする工夫として、薪を乾燥させる、斧で割って細かくしてからナタを使う、薪をのこぎりで短く切り長さを調整する、など
- 焚きつけ用に割りやすい薪や細い薪を持参。薪割りが不要なように割り箸、牛乳パックを焚きつけに利用

ナタの管理とメンテナンス

- 両刃のナタを用意 ○刃を研ぐ等整備したナタを持参
- 指導者がナタを管理

道具の活用・作業環境の整備

- ナタを振り下ろさないために、ナタの背の部分を押く小槌のような物を隊で作成し、各班に配布
- 斧・のこぎりなどナタ以外の道具の活用 ○軍手・革手袋着用の徹底
- 石を敷き詰める、台板を敷くなどの地盤の強化
- 安定した薪割り台の準備 ○ケガ0（ゼロ）運動の掲示
- 夜間作業の禁止

②会場は雨の影響で地面がぬかるんでいた。

32名隊が実際に起こったケガの報告をしてくださいました。

バンドエイドを貼るだけのケガで済んだ例もあったようですが、「ナタを振り下ろした時、薪の上でナタが跳ねて横滑りした」「ナタが途中からそれて、保持していた手に当たった」といった状況で受傷したようです。

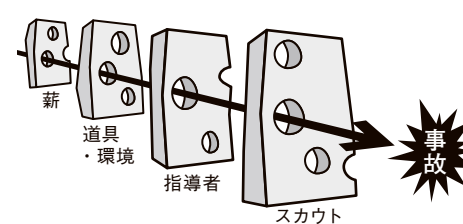
指導者の方が考える原因として、

- ①スカウト：技能が未熟、経験の不足、不適切な使用方法、集中力の欠如
- ②指導者：不十分な指導、対策の不徹底
- ③道具・環境：堅い薪、ナタの不適切な管理、作業しにくい環境、備品の準備不足、柔らかい地面

があがっていました。

事故があった隊も事前訓練を行い、現地でも対策を行っていたようですが、どこかに隙があれば事故が起こるということを改めて感じさせます。

『指導者が考える15NJにおける事故発生要因』のスイスチーズモデル



このように穴が重なると事故に至ります。ナタの事故の場合は「スカウト」「指導者」「道具や環境」「硬い薪」に伴うさまざまな要素が原因となっていたようです。

指導者が考える事故予防のために必要なこと

- ①指導者の指導能力・安全管理能力の強化
- ②スカウトの技能の向上
- ③開催側の対策（燃料の選定、スカウトの参加要件の検討）

調査期間：平成22年11月から平成23年1月／調査対象：15NJ派遣隊長 375名／調査方法：メールにて調査項目を各隊長宛に送信し、自由記述による回答を得た／回収率：256名（68.3%）／調査内容：ナタによる事故・ケガの予防対策、ナタによるケガ発生の有無（あればその状況と原因）、15NJでナタによるケガが多く発生した理由や原因、予防のために必要と思うこと。

安全委員会

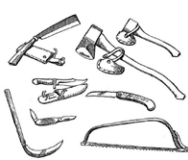
野外活動と刃物

スカウトの主な活動の場は野外です。自然の中では刃物を使う機会がたくさんあります。野営工作、薪割り、炊事、その他にもさまざまな場面で刃物が必要です。

そこで刃物を安全に、また上手に使えるということは、スカウトにとってたいへん重要な技能といえます。しかしその前に、私たちは自分たちの使う刃物が用途に合っているか、良い状態にあるのかを確認しなければなりません。

刃物の種類とサイズ

右にあげたのは、野外活動でよく使われる刃物です。同じ種類のもので大きさや重量が違っていた



り、刃の形が違っていたりとさまざまです。刃物を使う際は、まず目的に合った適切なものを選びなければなりません。まさか伐木用アックスで魚をさばいたり、ポケットナイフで薪を割ろうなんてことはしないでしょ。効率が悪く危険なだけです。

手入れを怠らない

鋭い刃物は安全であるといわれます。刃先が鋭いほど、切ろうとするものをしっかり捉え滑らないからです。どんな用途の刃物でも、適正な角度の鋭い刃がついていなければ、危険で役に立ちません。

各種の刃物にはそれぞれの研ぎ方があります。使う前に刃先を確認し、鈍っているようなら砥石を使って研いでから使いましょう。砥石にはいろいろありますが、表面が平らでなければなりません。特に中砥以上の目の細かい砥石は、常に砥面を確認して平らにしておかなければ、

正しい角度の鋭い刃をつけることはできません。

また使い終わった刃物を収納するときにも、注意が必要です。刃先を汚したままでも収納すると、錆びて使えなくなってしまう。収納時には刃先だけでなく刀身全体を乾いた布や鉱油を塗布した布でよく拭き、十分に乾燥させてからしまします。折りたたみのナイフは柄の内部（刃の納まる場所）もきれいにし、刃と柄のジョイント部分には軽く油をさしておきます。

刃物を持つということ

刃物を持つということは、楽しい活動につながる一方、間違った使い方をすれば、危険な武器を持つということにもなります。そのことをもう一度考えていただき、スカウトたちと「刃物を持つこと」について考え、よりよい活動にしていきたいと思います。

